

第15回講座

ボランティアについて



2017パークレンジャー養成基礎研修

201711/12

NPO法人日本パークレンジャー協会

1. ボランティアの意味

- Volunteerとは： 志願兵 義勇兵 篤志家

自発的に働き・活動する人 のこと

中世の騎士団や十字軍など宗教的な団体の活動に起源

- 語源はラテン語の 自由意志 「voluntas」

「種をまかないのに自生してきた植物」の意味もある



ボランティアとは自立(自律)した人

2. ボランティア活動の四つの原則

1) 自ら進んで行動する……

自主性・主体性

* 自己責任で他者から強制されない

2) とともに支え合い学びあう……

社会性・連帯性

* 自分の役割を果たし互いに支える

3) 見返りを求めない……

無償性・無給性

* お金や名誉、地位は求めない

4) より良い社会を造る……

創造性・開拓性・先駆性

* 自ら課題の解決策を考え実践して行く

3. 現代の社会

- **分業社会**：自分の役割が分かりにくい
- **格差社会**：正規・非正規、富裕・貧困
- **本当に価値あるものが何なのか良く分からない**
全ての価値をお金に換算して評価する社会
使い捨て社会
情報化社会、生活スタイルや価値観の多様化
- **人と人のつながりが希薄**：いじめ、虐待、孤立(独)死....、
- **人と自然の関係が遠ざかっている**
自然との付き合い方を知らない人が増加
手入れされない里山 や 山林や、放棄地....

4. ボランティアの必要性

1) 今の社会システムの限界

現代のように多様化した社会では、様々な課題に対して行政や企業の活動など、今までの社会システムでは対応しきれない

2) ボランティアは社会の担い手

多様化した社会には、自由な発想に基づく様々なボランティア活動が社会を支える担い手となる
自分の経験を生かして社会に貢献する場

3) 人の生きがいや自己実現の場

人とふれあう喜び、活動の楽しさ、上下関係や肩書きの無い自由な関係、自己実現、生き甲斐

5. ボランティアは誰のためにやる？

- 一般的意識としてのボランティアとは
「困っている人を助けてあげる人」のイメージがある
- 人は何かをしてあげると言うよりは、自分が何かをして人から感謝される時に喜びを感じる
「ありがとうの言葉」、「自分が生かされ人とつながっていると感じる」
「自分をやる気にさせてくれる」、「相手からパワーをもらったと感じる」...
- ボランティアは自分のためにする
ボランティアは助けるつもりが助けられている
楽しいからやる / 自らの成長や生きがいにつながっている

ボランティアは自分ためにやる

6. ボランティアの責任

- **ボランティアは自由意思の活動だが社会的責任がある**

約束や時間を守る、自分の役割を果たす、自立(自律)する...

- **ボランティアでも事故や怪我が起これば過失責任が問われることがある**

野外活動では。

- ①危険の予知をする(下見で不安全を調べる)
- ②危険を取り除く(安全対策をする)
- ③安全行動への注意と監督をする

7. さいごに

ボランティア活動は、自己責任で自由な意思に基づいてやるものですが、一人だけでは何もできません

年齢・性別・職業の差を越えてお互いにつながり、
学び合い・教え合ってレベルアップを図りながら、
各々が役割を果たして皆が協力することが大切です

ボランティアは楽しく、気長にやる